

平成 18 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
III 教科別調査結果の分析		
国語	2
社会	4
数学	5
理科	7
英語	9
* 得点の度数分布グラフ	11
* 平均点推移グラフ	17
* 正答率調査表	19

I 調査の概要

1 調査の目的

平成18年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成18年3月7日（火）

国語（55分、「書くこと」を含む）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「ヒアリング」約10分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員5,629人（男子3,063人／女子2,566人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は563人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないようにし、理解力、思考力、観察力、分析力等を検査することができるよう工夫すること。
- ④ 全県的視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は245.2点で、前年度より16.8点低い。最高点は474点、最低点は13点であり、その得点分布は（図1-1 P11）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は243.8点（前年度比-18.9点）、女子は246.8点（前年度比-14.4点）で、女子が男子より3.0点高い。その得点分布は（図1-2 P11）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成14年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1-3 P17）のように推移しており、各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、データからは低下傾向を読み取ることができる。

III 教科別調査結果の分析

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び言語事項の、国語における基礎的・基本的な学力を検査できる問題を選定した。
- ② 文学的文章では、作品で用いられている言葉の意味を文脈を基に類推する設問を配置するなど、内容を正確に捉える設問の工夫をした。
- ③ 古典は、漢詩とその鑑賞文を題材とし、音読を通して文章の内容を正しく読み取る設問、及び優れた表現を味わう設問を用意した。
- ④ 説明的な文章では、ほぼ同じテーマの二つの文章を比較しながら読み、目的に応じて的確に読みとる能力について検査するとともに、書き手の見方や考え方を捉えて、自分の見方や考え方によらし合わせて表現できるかを検査する設問を用意し、論理的な文章表現の力を問う検査とした。

2 得点別にみた度数分布

平均点は48.5点で、昨年に比べて11.1点低い。最高点は93点、最低点は5点で、その得点分布は(図2-1 P12)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は46.4点、女子は51.0点で、女子が男子より4.6点高い。その得点分布は(図2-2 P12)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成14年度から今年度まで5年間の全体平均点は、(図2-3 P17)のように推移しており、各年度の検査問題の難易度などに差異があるため断定はできないが、昨年度までは平均点は総じて概ね55%から60%の間で推移する傾向にあったと言える。

今年度については、説明的な文章に関する問題で、2つの文を読み比べる新傾向の問題であったためか得点が伸び悩み、平均点の低下につながっている。

したがって平均点の低下がそのまま、今年度受検生の国語力の低下を示すとは、一概に断定することはできない。

しかし、出題の傾向によって大きく左右されることは、課題である。

また、平均点の男女別比較でみると、女子は常に男子を5点前後上回っている。この傾向は例年どおりである。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

□ 言語事項(漢字・書写・語彙)

一、二では日常よく使われる基本的な常用漢字の読みと書取りを出題した。比較的易しい問題であり、おおむねよくできている。しかし、「沿革」「複写」が書けないなど、ややレベルの高い音読みの熟語については、不得意な傾向を示している。

三の書写についてはほぼできている。

四の助詞についての設問は誤答が多く、言葉の仕組みについては不得手な傾向が窺える。それに比べて主語述語に関する設問は、正答率が高い。つまり、大まかな文脈や意味については十分理解が進んでいる。その一方、助詞についての理解は未熟であり、文章表現や心情表現などの深い理解については課題が多いことを示している。

〔二〕ある討論の状況を設定した問題文の文脈を読み取り、司会者の役割に基づいて解答する設問であった。無答が15%あるなど、与えられた立場に立って全体を進めることができない傾向が伺える。

〔三〕文学的文章 出典「季節のかたみ」幸田 文

一は、文脈から副詞を判別する問題であったが、比較的できている。

二は、文中の表現の意味を解答する設問であったが、無答もなく良くできている。

三は、指示語と作者の心情を問う設問だが、想定どおりの正答率で、良くできていた。

四は、「矛盾している二つの動作」という表現について、文脈を正確に捉え、作者の心情を問う設問であった。やや不得手な傾向が見てとれる。

五は、作者の心情を捉え、「気持ち」につながるよう語尾変化をさせて解答する設問であった。

無答と誤答が併せて32%あるものの、正答率は68%であった。こうした設問形式については、日頃から慣れていることも窺える。

全体的に平易な設問であり正答率も高いが、四の「矛盾」という語の概念を踏まえ、該当する文脈を本文から探す設問は、正解も無答も共に3割近くあった。

〔四〕古典 出典「漢詩の世界」石川忠久

一は、漢文をすべてひらがなで書き下す設問であったが、無答も少なくよくできている。

二は誤答が多い。無答が6.3%と少ない状況を踏まえると、正確に読み取れずに誤った答を導いているに状況があり、文の正確な読み取りの力が不足している。

三は、漢詩の鑑賞に関する設問だが、選択肢であるためか大変良くできていた。

〔五〕説明的な文章 出典「豊かさとは何か」暉峻淑子・「哲学の構想力『仕事』をめぐって」内山 節（信濃毎日新聞平成17年9月17日掲載）

一は、対義語を問う設問だが、誤答が60%あり、語彙力不足の状況を反映している。

二は、接続詞を問う問題だが、75パーセントの正答率で大変良くできている。

三・四・五は、AB2つの文を読み、文脈を確認する設問であった。内容的には同程度の設問だが、五の選択肢による設問は72%の正解に比べて三は誤答が多く、四是無答が多い結果となっている。これは、2つの文を比較して読んだり、論理構成を捉えたり、筆者の主張内容を自分の言葉に置き換えたり、概念化することに不慣れな結果と思われる。

七は、長文と関連させた出題である。「労働」の意味について問題文を読了後、自分なりの根拠（具体例とか自分の体験など）を基にして自分の考えを述べる、いわば論理的な文章表現力を問う問題である。15点中5点以上の得点をした割合は74.5%であり、10点以上は26.3%である。「書くこと」の学習の成果が表れているように思われる。

5 全体を通しての考察

言語事項では、基本的な常用漢字の読み、書取りや書写などでよく学習が身に付いている。

しかし、全般的にやや難易度が高い音読みの熟語などについては、不得意な傾向が顕著である。

また、主語述語に関する設問の正答率は高いが、助詞に関する設問については6割近い生徒が誤答であり、助詞助動詞などの基礎知識の不足、つまり文意を正確に受け止める力が不足している。

文学的文章や古典の設問では、選択肢などの設問については正答率が高い。しかし、様々な表現をもとにして、脈絡を正しく読み取ったり、詩と鑑賞文を読み比べたりしながら文意を読み取るなど、文章をいったん自分の言葉に置き換えて理解し、それをもとに考察を進めるような読解については、習熟していない傾向がある。

説明的な文章では、2つの文を読み比べ、作者の主張とそれを支える例や論旨について正確に捉え、さらにそれをもとに自分の意見を述べることには、大きな課題があるようと思われる。

○ 社会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い合わせた多角的・多面的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨にそった出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は49.2点で、昨年に比べて0.4点低い。最高点は99点、最低点は0点で、その得点分布は（図3-1 P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は49.7点、女子は48.6点で、男子が女子より1.1点高い。その得点分布は（図3-2 P13）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成14年度から今年度まで5年間の全体平均点は（図3-3 P17）のように推移しており、各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、データからは低下傾向を読み取ることができる。また、男女別比較でみると、男子は女子を下回ったことはないことが分かる。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P19）

① 地理的分野

世界各州の分布状況・名称の理解や、地形図の縮尺の導き出しなどの基礎的・基本的事項は概ね定着している。また、日本企業の海外現地法人に関する経済データの基礎的な読み取りは高い正答率であった。しかし、その読み取った内容を論理的に思考・判断し、指定された字数で表現する問題は低い正答率であった。複数の地理的情報から中部地方各県の名称・県庁所在地を答えさせる問題も、予想以上に低い正答率であった。

② 歴史的分野

防人が配備された地域の地図を選ぶ問題、「元」という国号や徳川吉宗という人物名を導き出す問題、各時代の生活や文化の様子を問う問題などの正答率は高く、歴史学習における基礎的・基本的事項は概ね定着している。一方、我が国の時代区分の仕方を類推したり、各時代の政治の実権の変遷をとらえるなど、基礎的・基本的事項を踏まえた思考・判断力、表現力を問う問題では、予想よりも低い正答率であった。

③ 公民的分野

憲法や経済などに関する基礎的・基本的事項を問うた部分の正答率は高かった。反面、現実の条例を読み取り基本的な「地方公共団体」という言葉を導き出したり、具体的事例から公共の福祉が制限を受ける例を判断する問題、資料から考え「介護」保険制度を書かせる問題は予想より低い正答率であった。

④ 3分野総合

外国人留学生の見た日本人のイメージをグラフから読み取る問題や本県に住む外国人の国名を地理的知識から特定する問題など基礎的・基本的な問題は正答率が高かった。しかし、基礎的・基本的な問題でも、たとえば、小学校6年で学習する『学問のすゝめ』の書名を、著者名や「天は人の上に人を造らず・・・」などのキーセンテンスを伏せて、「日本人の考え方を近代化しようとした本」として問うなど、問い合わせると大幅に正答率は下がった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解力、資料活用の技能、思考・判断力は概ね身に付いている。しかし、複数の資料から読み取った情報を、問い合わせに沿って、論理的に結びつけ、答えを導き出していく思考・判断力に欠ける面も見られた。また、資料から読み取った情報や社会的事象を、指定された字数で簡潔に表現する能力に差が見受けられた。

県名や県庁所在地名、大まかな時代区分などのような基礎的・基本的な知識の確実な定着を図るとともに、社会的事象にさまざまな視点から考察の光をあて、対象の全体像を明らかにするような複眼的な思考力と表現力の育成が求められる。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、数量関係の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的な表現・処理の能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決する活動を重視した。
- ② 数学的な見方や考え方に対する根ざした活動を重視した。
- ③ 複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。
- ④ 思考過程や問題解決の手順などが検査できるように、記述式の解答形式を多く取り入れた。

2 得点別にみた度数分布

平均点は46.7点で、前年より1.8点高い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子47.5点、女子45.7点で、男子が女子より1.8点高い。その得点分布は(図4-2 P14)に示すとおりであり、61点以上において、男子の度数が女子の度数を比較的大きく上回っている。

3 平均点の推移

平成14年から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P18)のように推移している。いずれの年度においても男子の平均点は女子の平均点より2点程度上回っている。学習指導要領の施行措置以降、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、全体では40点台を推移している。しかし、徐々にではあるが上昇傾向にある。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

1 「数と式」基本計算

全体的には高い正答率であった。6問中5問が85%を超え、そのうち3問は90%を上回った。最も正答率の低いものは、分数を含む正負の数の加法と乗法の問題で73.0%であり、計算の順序、符号の処理の誤りが目立った。

2 「小問集合」各分野の基本問題

概ね十分な正答率であった。特に、枝問1の日常の事柄を文字を用いて表現する問題の正答率は高く96.5%であったが、枝問2の公式を用いて因数分解する問題、枝問3の比例の関係を式で表す問題は65%程度であった。また、枝問5の扇形の弧の長さ求める問題は44.5%であり、面積を求めた誤答が目立った。

3 「数と式」 方程式

全体的にはやや不十分な正答率であった。枝問1の、式によって表現されたものの意味を捉える問題の正答率は24.3%と特に低い。また、枝問2の例と異なる見方で方程式をつくり計算の過程を記述する問題の正答率は20%余りである。枝問3の一次方程式をもとに具体的な問題をつくることの正答率は44.7%で、想定した正答率を上回った。未知数の意味を捉え、方程式が表現している事柄を考察することが不十分である。

4 「数量関係」 2つの量の関係

全体的に不十分な正答率であった。枝問1(1)の2つの量の関係を把握するために図をかいたり値を求めたりすることは50%以上の正答率であった。しかし、それを踏まえて、表にまとめた2つの量の関係を考察して式に表現することを求めた枝問1(2)の正答率は20%に満たない。また、枝問2の前問での思考過程を振り返りながら同様の考察を行い、類推しながら2つの量の関係を見いだすことはきわめて低い正答率である。枝問2の無答率は70%を超えてであることからも、2つの量の関係を捉るために、自ら図をかいたり表にまとめたりしながら考察する習慣があれば正答率は上がったと考えられる。

5 「数量関係」 関数のグラフ

全体的に不十分な正答率であった。どの枝問も関数のグラフ上の点と基本的な図形の性質を総合して考察し処理する問題であるが、基本的な枝問1の正答率が最も高い55%であった。枝問1、2(1)は反比例のグラフ上の点を求め四角形の計量へ結びつけた問題であり、枝問2は正方形と関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を結びつけた問題であるが、2つの基本的な学習事項を的確に組み合わせて思考する習慣があれば正答に至ることができる問題である。

6 「図形」 作図・証明

枝問1、2(1)の基本的な作図の操作に関するることは70%を超える正答率であった。しかし、枝問2(2)のその操作の根拠を論理的に考察し、表現する証明問題は、60%の受検生が解答に臨んだが正答率はきわめて低い。この証明は2つの段階を踏むこととなるが、前半の2つの三角形の合同を証明する部分の正答率は10%に満たない。条件を踏まえて図形を把握することや、結論を導き出すために見通しをもって段階を踏んで考察することに不十分さが見られる。

7 「図形」 空間図形

不十分な正答率であった。枝問1は、空間図形を展開図をもとにして把握する問題であるが正答率は46%足らずであった。枝問2は、空間図形を四面体の集まりとして捉え、表面積や体積を求める問題である。2(1)、(2)ともに70%の受検生が解答に臨んだが、10%に満たない正答率であった。空間図形を多面的にみること、基本的な計量を順序立てて求めることが不十分であると考えられる。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、充分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問での正答率が低い。特に、基本的事項を組み合わせて活用して考察したり処理したりする場面や学習内容の意味に関わる問題場面で正答率が低い傾向がうかがえる。単に問題を処理するための知識や技能の習熟にとどまらず、身近な場面や数学的な事象に積極的に活用することを通して、見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身につけることが求められる。また、ねばり強く考えることや、自らの考えを言葉や式、図形などを用いて数学的に表現したり説明したりすることを習慣化することが必要である。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」ことや、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から出題し、偏りなく、学力が検査できるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項について検査できるように配慮した。
- ④ 思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 日常的な自然現象に关心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

平均点は42.0点で、前年より10.7点低い。最高点は99点、最低点は0点で、その得点分布は（図5-1 P15）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は43.4点、女子は40.3点で、女子が男子より3.1点低い。男女別の得点分布は（図5-2 P15）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成14年度から今年度までの5年間の全体平均は（図5-3 P18）のように推移している。15年度からの4年間が低くなっているが、思考力・判断力を問う問題が増えたためではないかと考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年女子が男子を下回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P20）

① 岩石に係る問題

岩石の特徴、分類の仕方、見分け方、観察器具の使い方を理解しているかを問う問題である。

基本的な問題が多いため、全体的に正答率は高い。

② 消化と血液に係る問題

1は、血管とそこを流れる血液、血液の成分と細胞との物質のやりとりについて理解しているかを問う問題である。

2は、唾液のはたらきを理解した上で、表を読みとって結果を推定する問題である。

基本的な内容を問う問題であるため、比較的正答率は高いが、1(3)は28.4%と低い。選択問題であるが、血液と物質のやりとりを、正確に理解していないと正答に結びつかないのではないかと考えられる。

③ エネルギー資源の利用に係る問題

1は、化石燃料の燃焼による大気汚染物質を理解しているかを問う問題である。

2は、資源の利用方法とエネルギーの変換について考える問題である。

1は、28.7%と正答率が低い。大気汚染の原因となる気体名までは、充分把握できていない生徒が多いと考えられる。

④ 音に係る問題

音の振動数、大きさ、波形、反射、伝わる速さ等の基礎的な内容をもとにして、いくつかの現象について考える問題である。

全体的に正答率が低い。特に、2の計算結果から海底の様子をかく問題は11.3%と低く、与えられた条件が往復の時間であることを見落としたのではないかと考えられる。また、3は5.0%と非常に低いが、数学で学習した三平方の定理を理科に応用することを考えつかなかったのではないかと考えられる。

⑤ 植物の呼吸に係る問題

植物の呼吸について調べる実験から、呼吸と光合成の関係や二酸化炭素の性質、実験の技能を問う問題である。

基本的な問題であるため、全体的に正答率は高い。4が9.7%と低いのは、論述問題であり、日中における光合成量と呼吸量との違いについて、正確に理解できていなかつたのではないかと考えられる。

⑥ 地球と太陽の関係に係る問題

地球と太陽の位置関係から、太陽光のあたり方を推測し、昼と夜の長さ、日の出や日の入りの方角、日本の日の出の位置、南中高度の作図等について問う問題である。

4、5の作図の正答率が非常に低い。内容を大まかに理解できてはいても、実際に図に表す経験が普段の学習で少ないのでないかと考えられる。

⑦ 酸化と還元に係る問題

1は、酸化銅の水素による還元実験を通して、物質の色の変化、水の確認方法、化学反応式を問う問題である。

2は、酸化銅の炭素による還元実験をもとにして、酸化された物質と還元された物質、グラフを読み取る力、現象から質量保存の関係をもとにして物質の質量の計算力等を問う問題である。

全体的に正答率が低い。特に2(3)②は、いくつかの思考過程を経なければ解答にたどり着かないで正答率が低かったものと考えられる。

⑧ 物体の運動に係る問題

物体に働く力と運動の関係をもとにしてグラフを読み取り、速さの変化と力の関係、等速直線運動中に働く力、速さと運動エネルギーの関係、平均の速さ等を問う問題である。

全体的に正答率が低い。特に4(2)は、グラフから平均の速さを求めることができないので正答率が低かったものと考えられる。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則した、全分野からの基本的な学力をはかる問題である。全体の平均点は、42.0点で前年より10.7点低い。

例年のように、覚えたことを答える問題や問題集等にあるパターン化された問題については正答率は高い。今年は、学習指導要領のねらいのひとつである思考力を問う問題を多くした。平均点が低くなったのは、思考を問う問題の正答率が極端に低く、論理的に思考することを苦手とする生徒が多いためと考えられる。いくつかの基本的な内容を組み合わせて総合的に思考する問題、イメージを論理的に思考する問題が苦手である。また、昨年度と同様に、文章記述力や読解力、計算の技能等、基本的な能力を要求する問題が多かったことも影響している。

実験や観察の結果から疑問点を見つけ考えられる力や、基本的な法則や自然現象をより深く考えられる力の育成を、さらに進めていく必要がある。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示された外国語の目標及び内容に即して、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって基本的事項を出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストの比重を30%程度とした。リスニングによる検査問題には、「聞くこと」と他の領域をリンクさせた問い合わせを含めた。
- ③ 「読むこと」については、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、条件英作文や自己表現を促す問題を入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたって、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別にみた度数分布

平均点は58.9点で、前年より3.7点高い。最高点は100点、最低点は0点で、その分布は(図6-1 P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は56.9点、女子は61.2点で、男子が女子より4.3点低い。男女別の得点分布は(図6-2 P16)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成14年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P18)のように推移している。今年度は、大問5の設問5で、従来減点の対象としていた綴りのミスなどについて、コミュニケーションを妨げない場合は減点の対象としないこととしたが、このことが平均点の上昇につながったと考えられる。

また、男女別比較でみると、女子は男子を上回っているが、今年度においては、その差は4.3点と、昨年度(2.5点)に比べて、広がっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

① 「聞くこと」に係る問題

文字を用いず、音声とイメージを直接結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

正答率は、平均83.8%と良好な結果であり、英語を聞き取る基本的な学力は定着していると考えられる。4の正答率が他より低かったのは、before noonという表現が生徒にとっては難しかったためと思われる。

② 「聞くこと」に係る問題

基本的な日常会話での表現や英語での足し算などについて、英語で表現するための基礎力を評価できるようにした。

正答率は、平均57.7%であった。3は、正答率30.0%だが、贈り物の送り手か受け手かの立場が明確にできなかったのではないか、と考えられる。5は、英語での $12 + 24 = ()$ という足し算だが、その定着は十分とはいえない。

③ 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に係る問題

友人同士が松本での、ギターコンサートに行くことについて会話しているという状況を設定している。基本的な「聞く」能力に加えて、答えを「書く」という発展的な能力をも評価できるように配慮した。

1, 2は選択式の設問で正答率も高い。3, 4の記述式の設問の正答率は低く、特に0点の者が、3で70.7%, 4で48.5%であった。内容を理解していても正確に「書く」ことができなかつたのではないかと考えられる。

④ 「読むこと」「書くこと」「話すこと」に係る問題

来日間もない外国人の、バスの中での会話と、図書館での会話を設定した。対話文を理解する上で必要な基礎的・基本的事項についての知識や、対話の文脈を把握し、適切に英語で表現する能力を、総合的に評価できるよう配慮した。「書くこと」に係る設問では、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力を評価できるようにした。

設問1と4は与えられた日本語の内容を英語にする問題だが、4については現在完了形の使用について課題があるものと考えられる。

設問2のBについては正答率が35.0%と低いが、「英語で書かれている」という時の"in"の定着に課題がある。

⑤ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

山梨県立博物館に両親と行ったアキラが、その様子を友達に書き送った英文メールを読み、その概要を把握するとともに、英語で自己表現する問題である。

昨年同様、使用語数を従来より増やしたが、その分、易しい英文とした。設問形式も、様々な観点から英文を理解する能力を評価できるようにした。

設問2は、段落の内容を表す見出しを選ぶ問題である。断片的な情報としてではなく、全体として、内容を理解する力をみる問題である。概ね良好な結果と考えられる。

設問4は本文の内容から作成したグラフを完成させる問題だが、C以外は良好な結果であった。Cは>this year"が何年なのか答える問題であるが、メールの日付に着目できなかったのではないかと思われる。

最後の設問5では「将来の夢とその理由」を、自分の言葉で述べることが求められている。3文で書くこととした。無答の者が17.7%と少なく、設問の指示通り3文書いていた者が62.3%と高かった。日常の中学校での学習活動の中で取り扱われるテーマなので、取り組みやすかったと思われる。また、コミュニケーション能力を測るという観点から、この設問では、採点にあたってコミュニケーションを妨げないような綴りのミスなどは減点の対象としないこととした。これは本県では初めての試みであった。

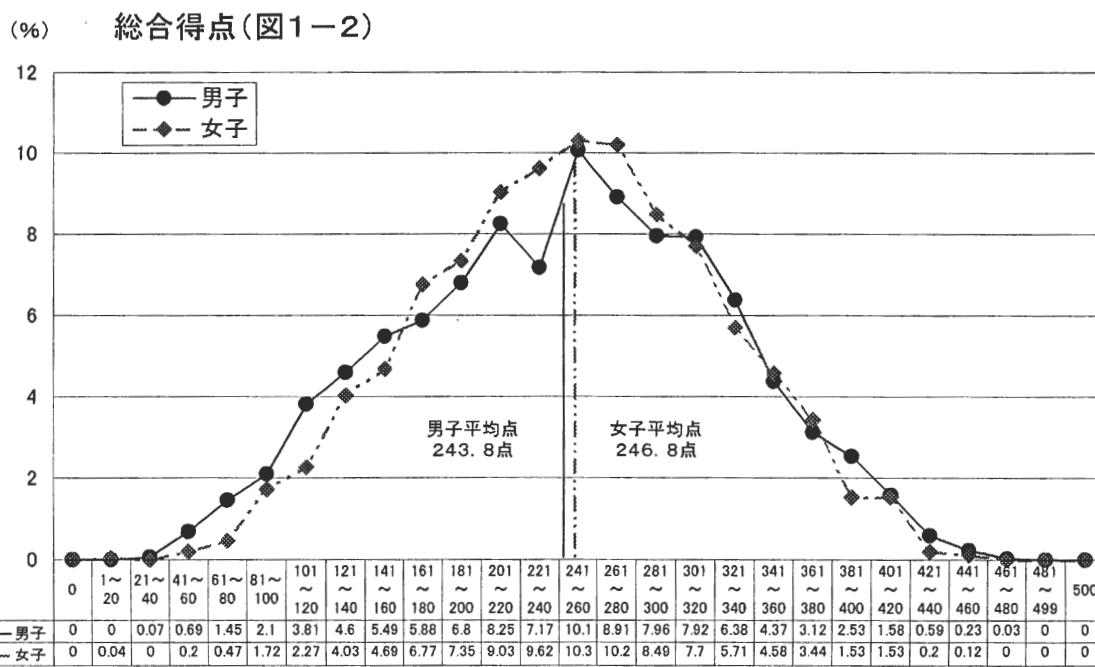
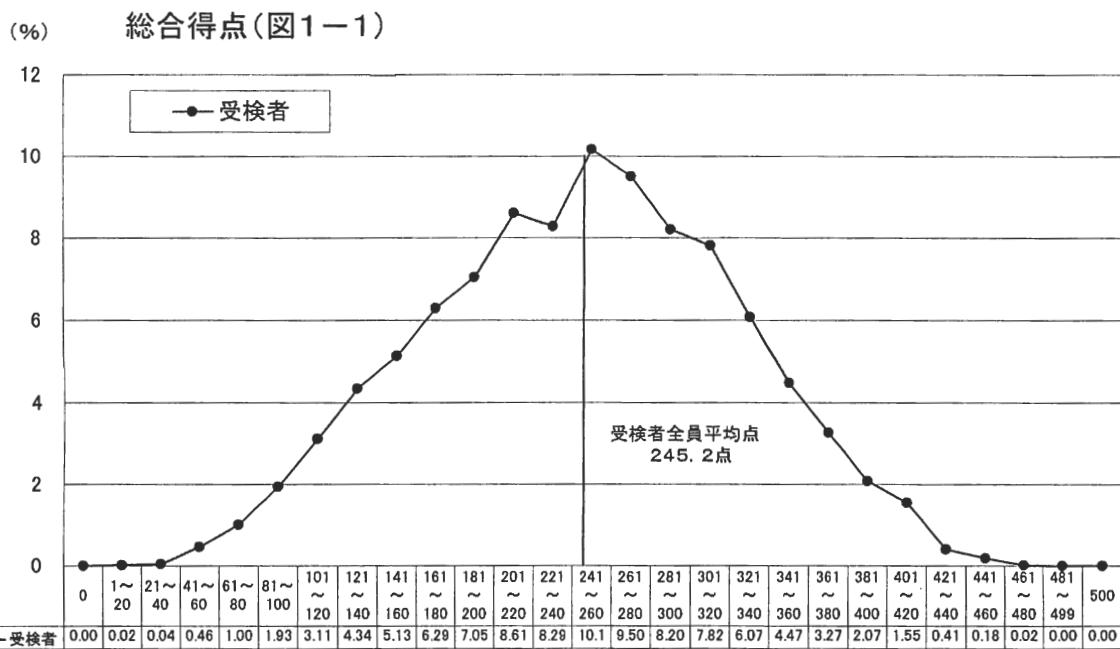
5 全体を通しての考察

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4領域について、知識・技能をもとに、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

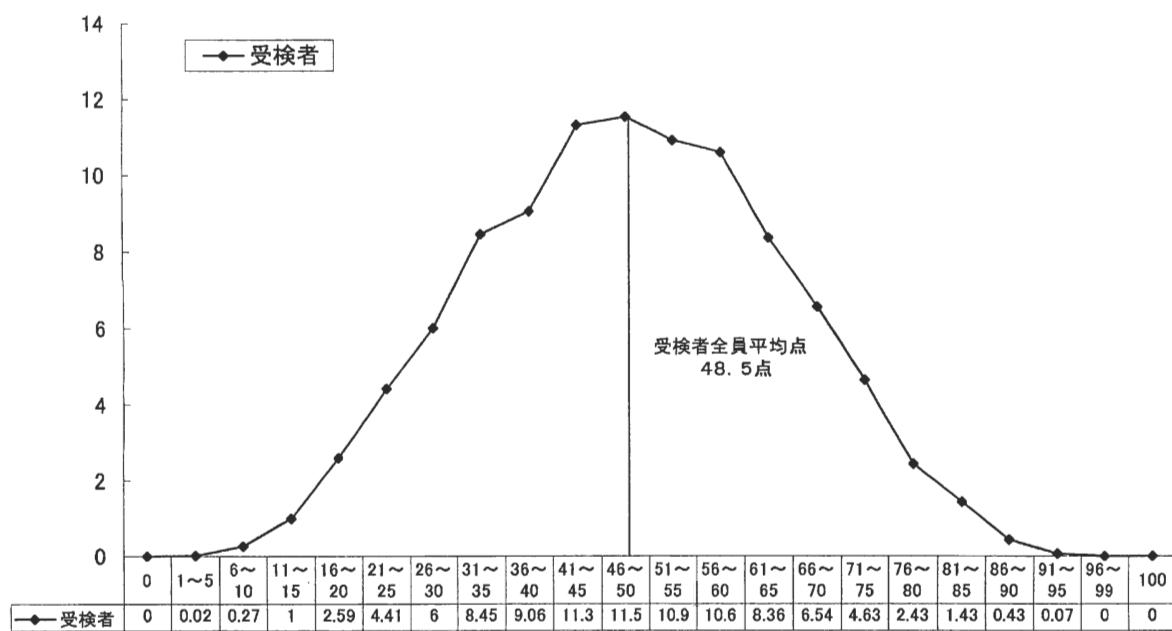
「聞くこと」については、その基本的な能力の定着状況は概ね良好であったと考えられる。ポイントをしっかり聞き取り、聞き取ったことを「書く」点については、十分とは言えず、一層の向上が望まれる。

「読むこと」については、受検生が英文を読んで理解した時どのようなことができるか、という観点から様々な出題方法を採用した。全般的には概ね良好な結果であった。

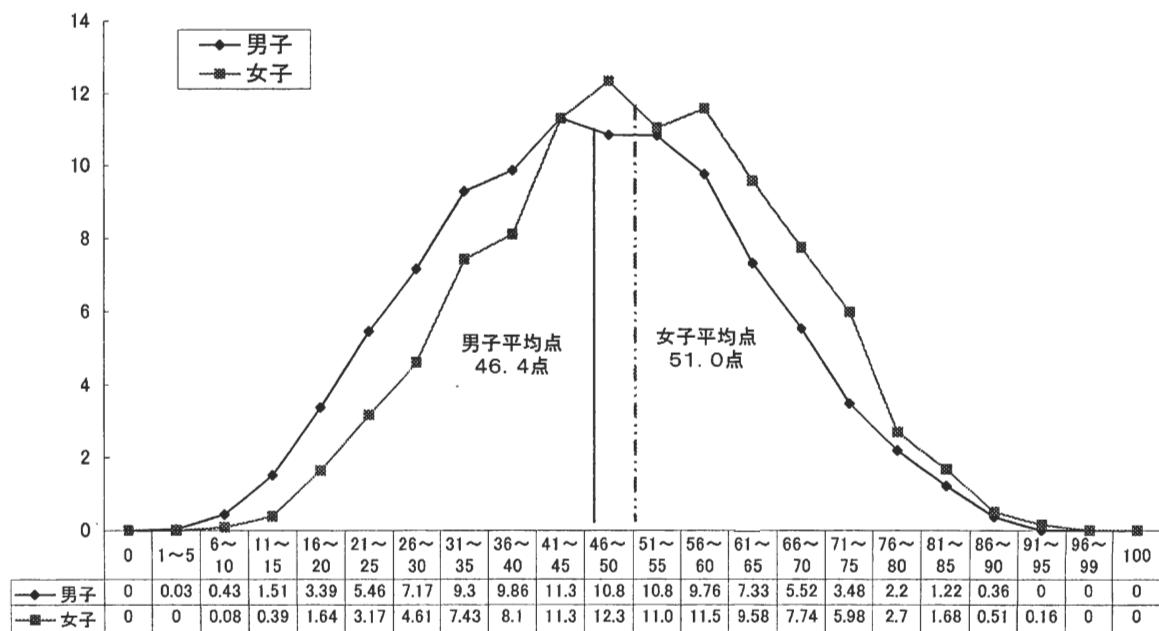
「書くこと」については、どのようなテーマに対しても、自分の言葉で意欲的に表現できるよう、コミュニケーション能力の育成という視点からの指導の工夫が必要である。



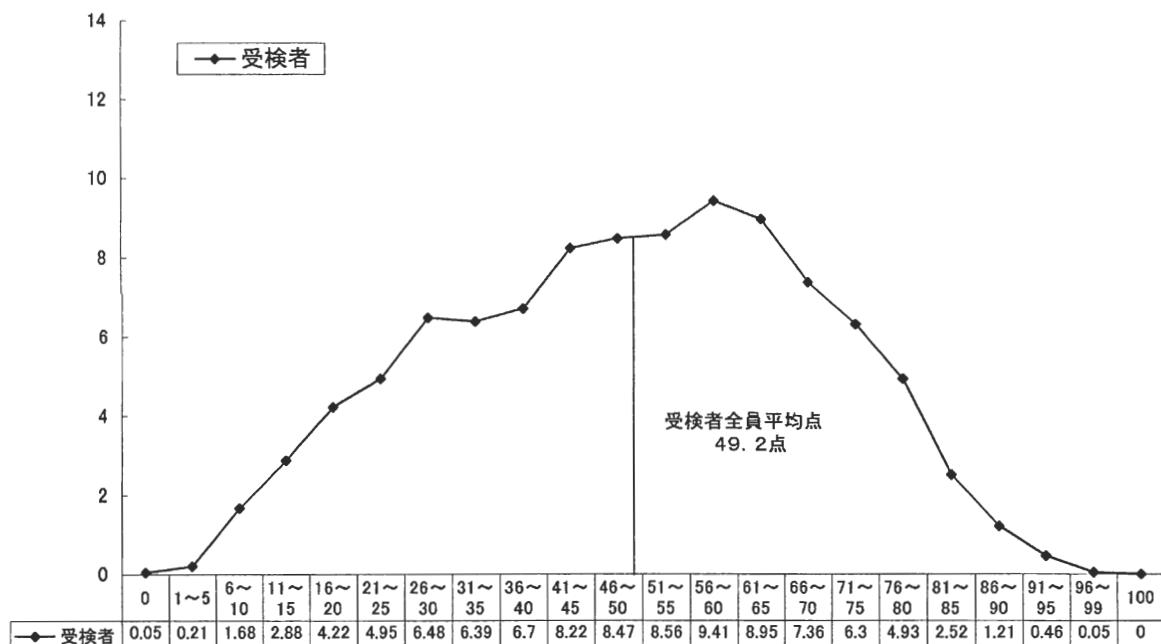
国語(図2-1)



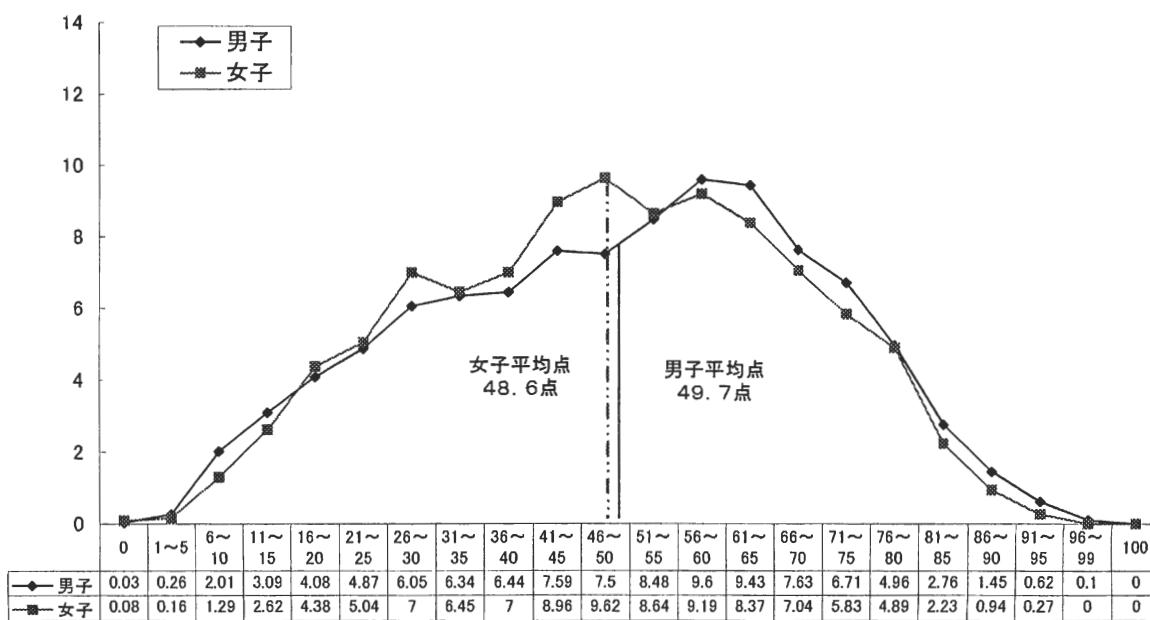
国語(図2-2)



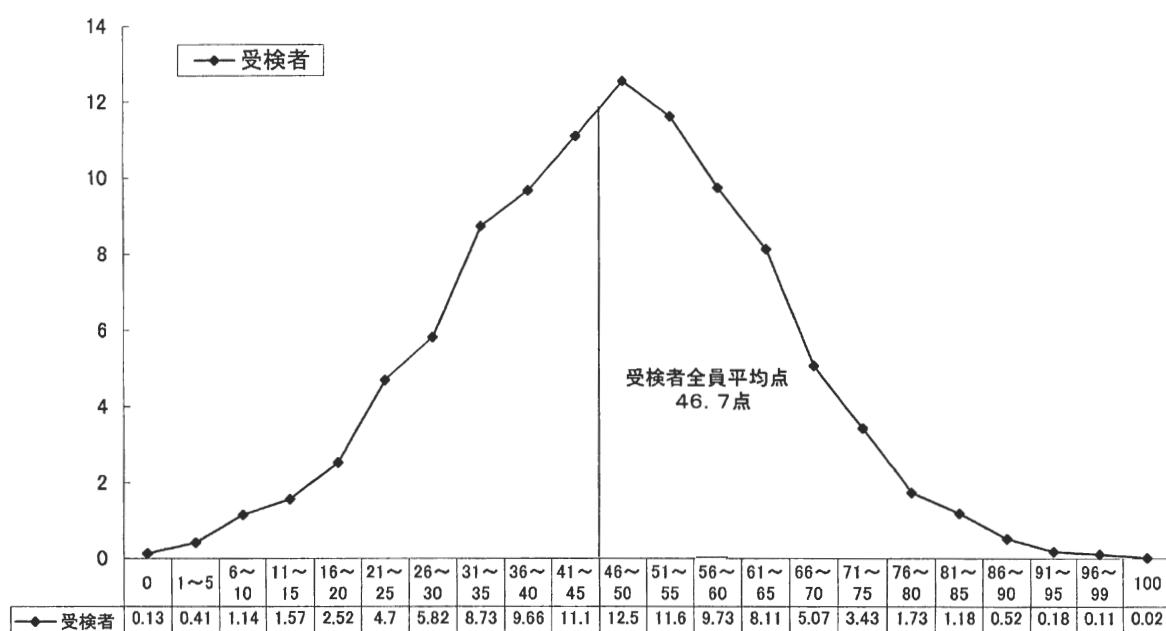
(%) 社会(図3-1)



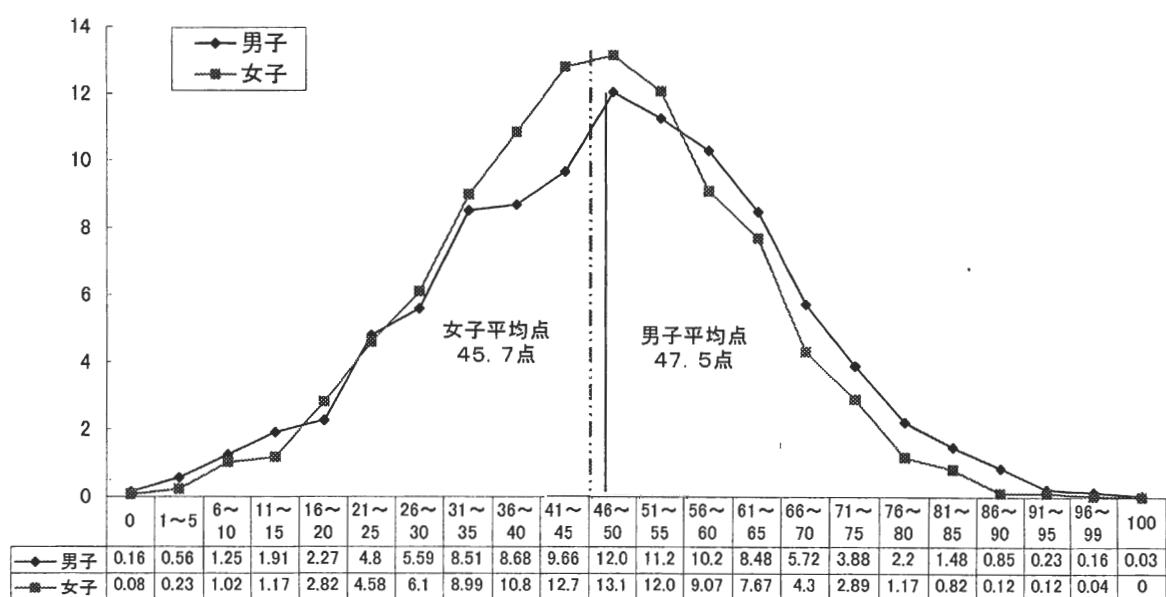
(%) 社会(図3-2)



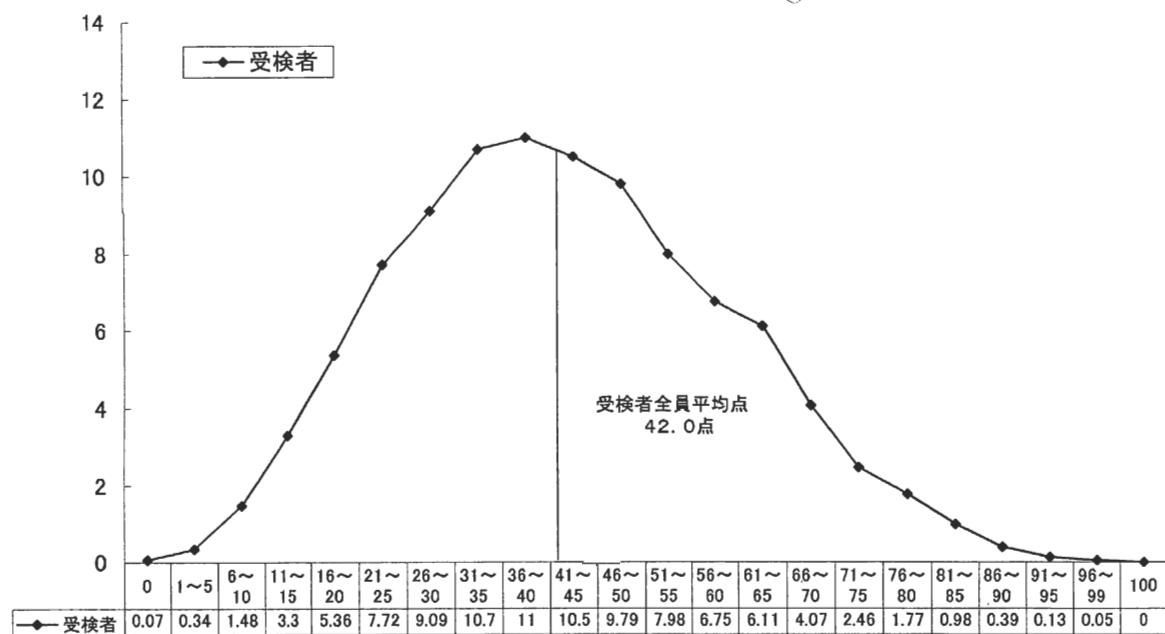
(%) 数学(図4-1)



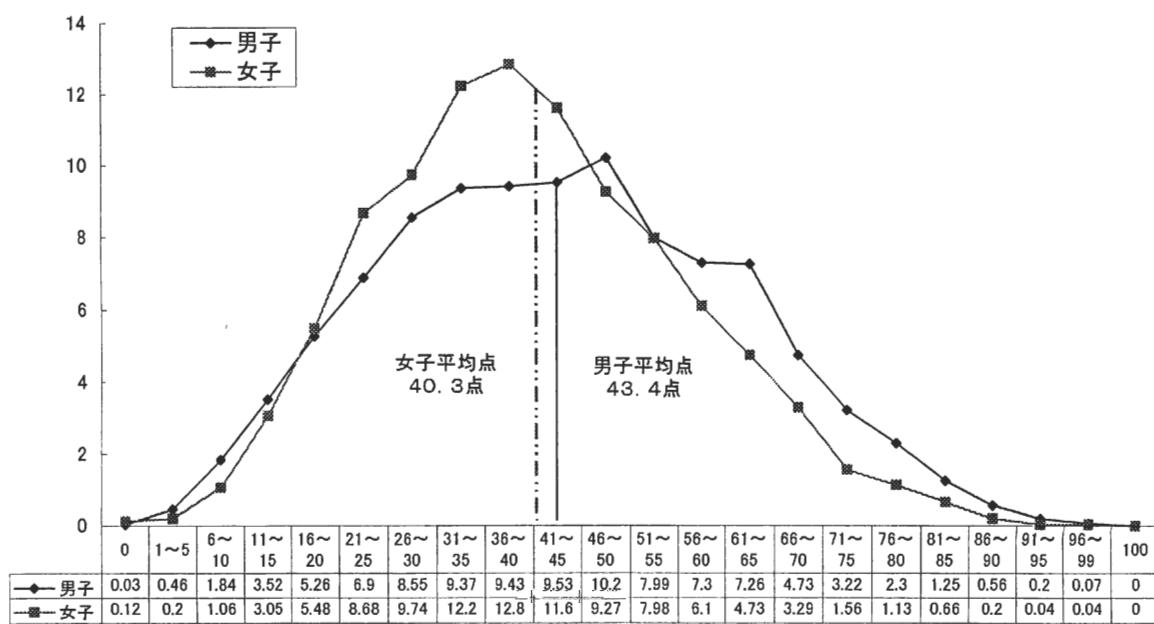
(%) 数学(図4-2)



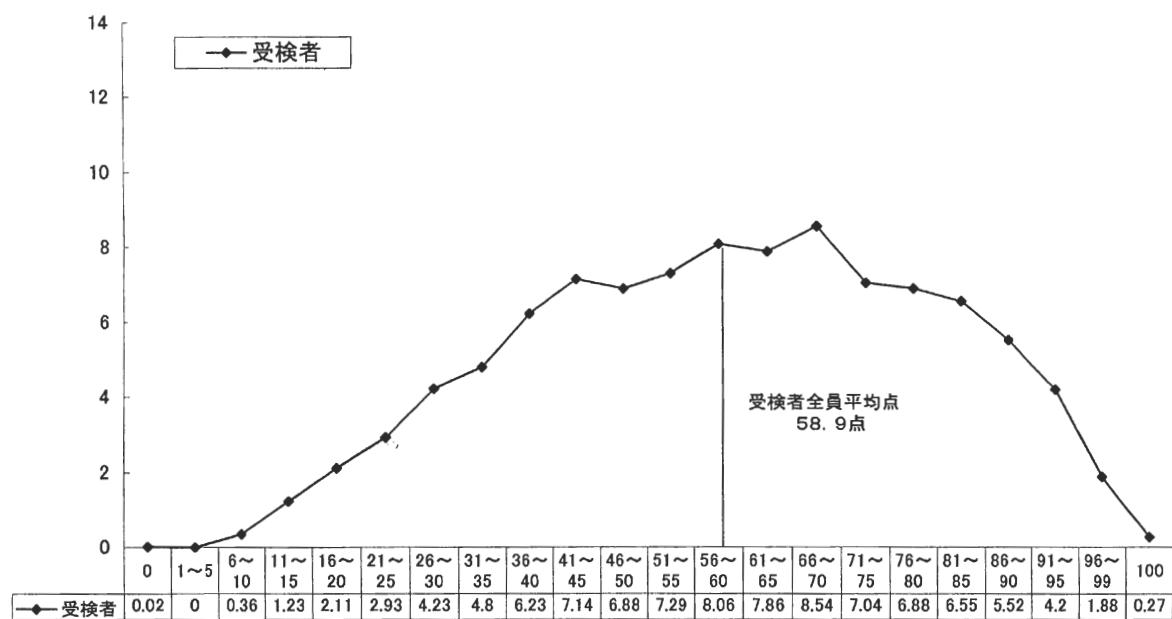
(%) 理科(図5-1)



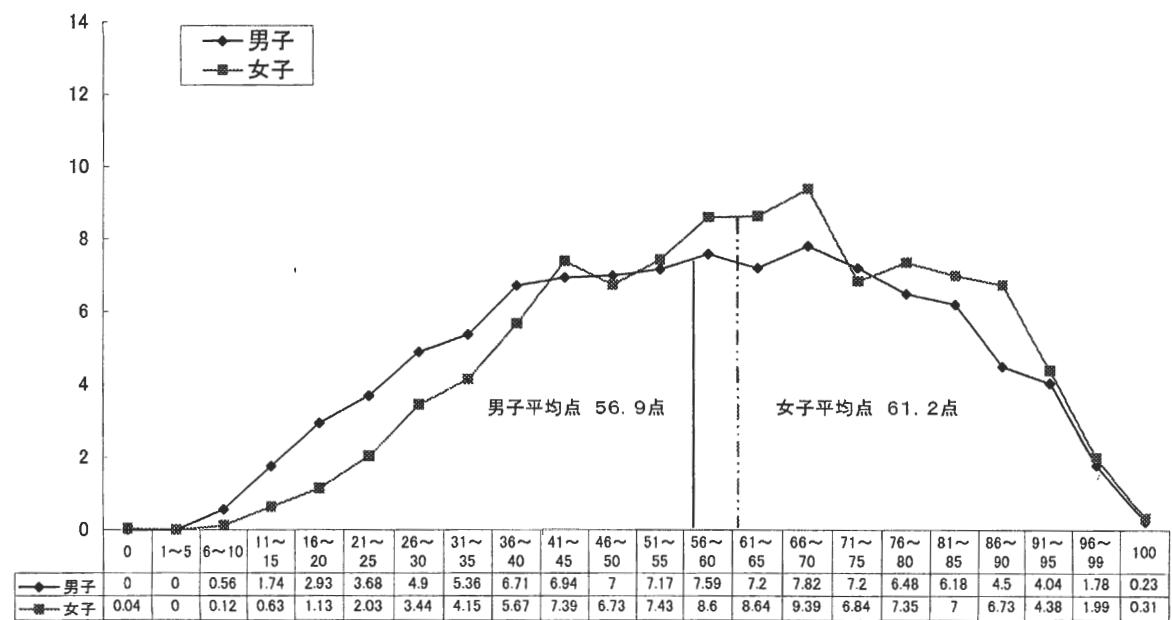
(%) 理科(図5-2)



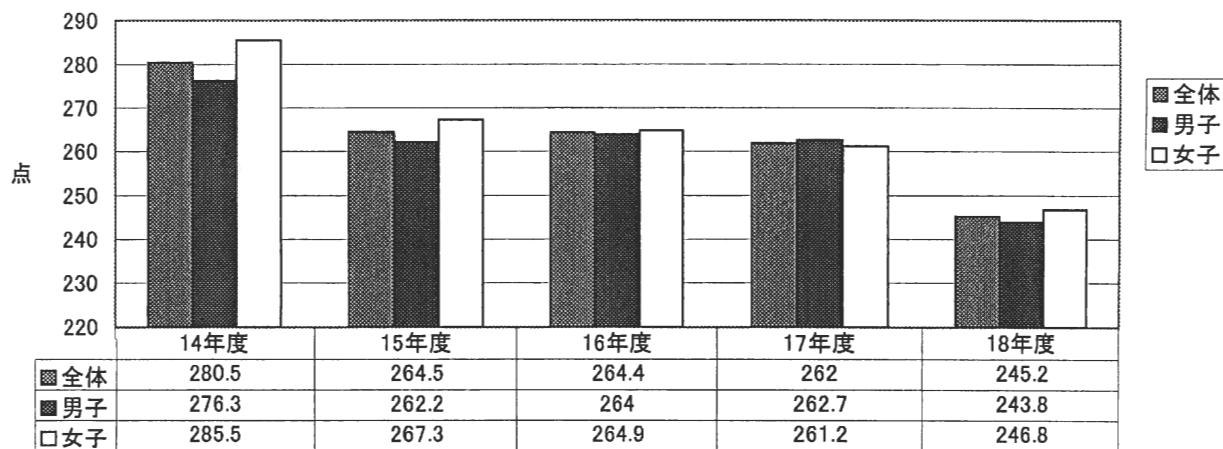
(%) 英語(図6-1)



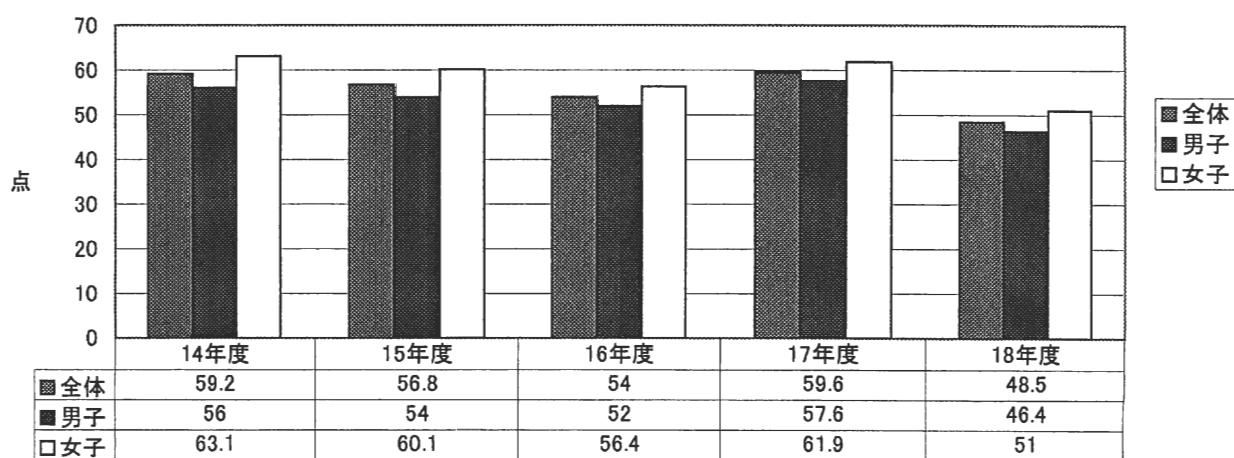
(%) 英語(図6-2)



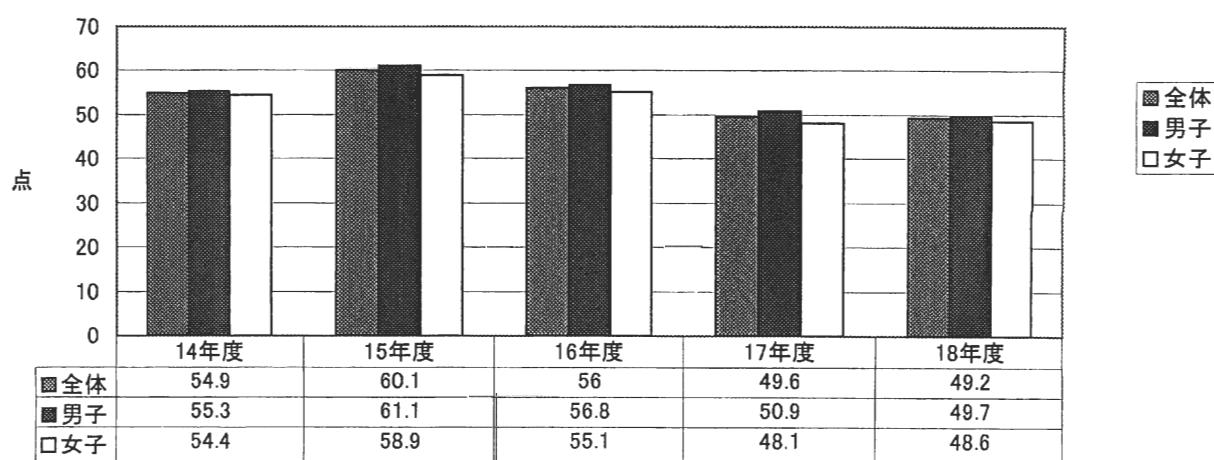
総合平均点(図1-3)



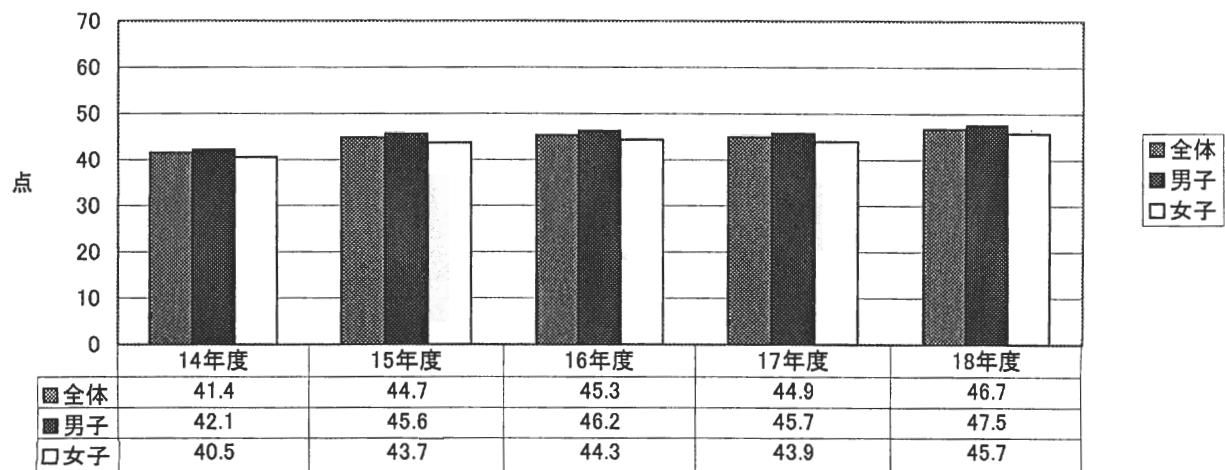
国語平均点(図2-3)



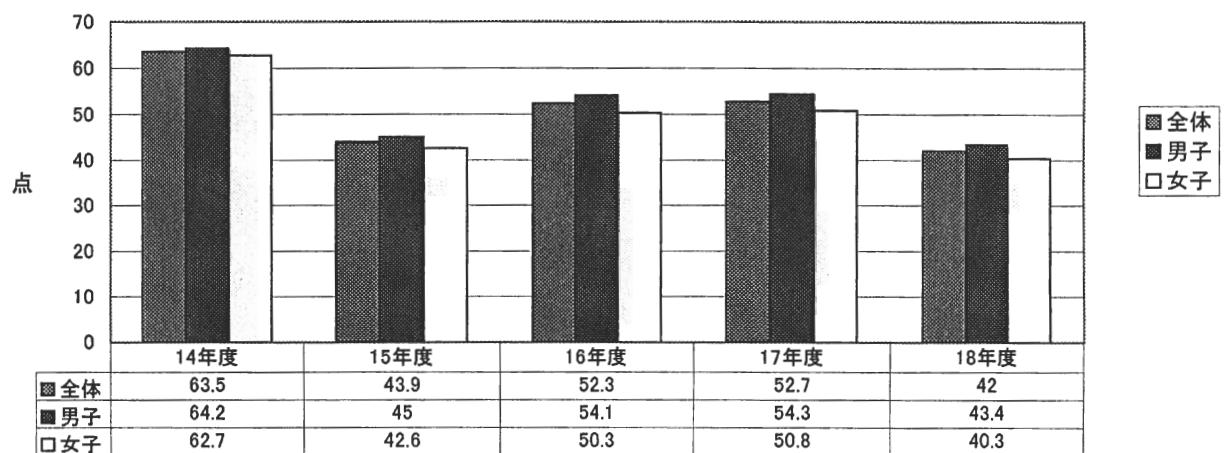
社会平均点(図3-3)



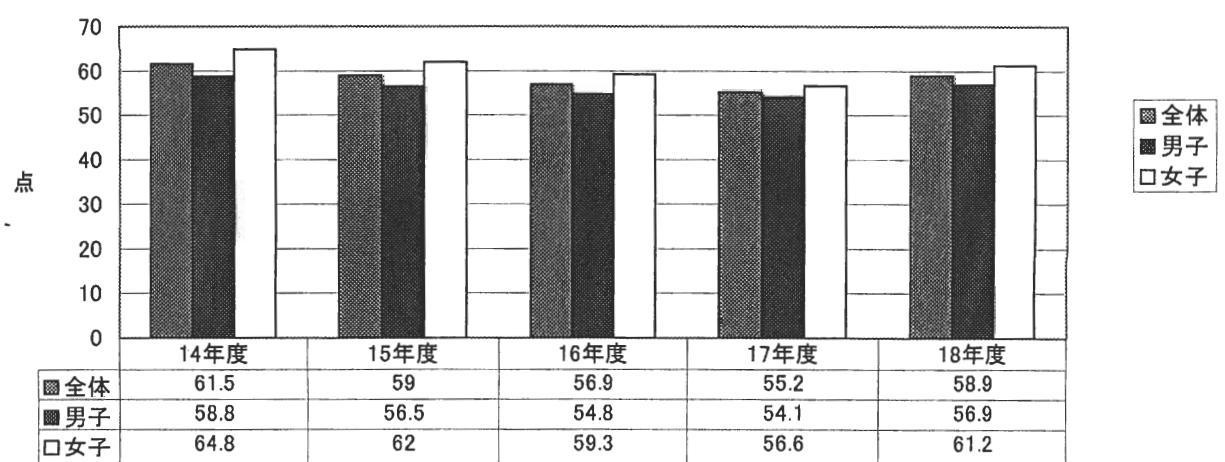
数学平均点(図4-3)



理科平均点(図5-3)



英語平均点(図6-3)



平成18年度 正答率調査表

【国語】

問 題		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 題		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
一	ア	85.3	12.4	2.3	四	一	43.9	51.8	4.3
	イ	98.4	1.4	0.2		二	45.5	47.0	7.5
	ウ	67.3	27.0	5.7		三	7.2	86.5	6.3
	エ	92.2	6.4	1.4		一	66.4	33.1	0.5
	オ	68.0	26.3	5.7	五	二	25.8	60.7	13.5
	ア	66.8	25.2	8.0		三	75.0	23.9	1.1
	イ	88.8	8.0	3.2		四	38.2	56.7	5.2
	ウ	4.6	59.7	35.7		ア	27.0	13.5	59.5
	エ	54.5	29.9	15.6		イ	40.9	26.1	33.0
	オ	37.1	46.4	16.5		五	72.3	24.9	2.8
二	一	94.6	5.2	0.2		六	17.4	45.7	36.9
	2	78.9	21.1	0.0		ア	15.5	44.4	40.1
	1	33.7	57.1	9.2	七	得点	%	得点	%
	2	75.7	22.7	1.6		0	10.1	8	11.1
	二	36.9	47.8	15.3		1	1.9	9	6.6
	一	43.9	56.1	0.0		2	2.4	10	10.2
	二	79.4	20.6	0.0		3	4.5	11	6.4
	1	51.3	48.7	0.0		4	6.6	12	4.8
	三	61.6	38.2	0.2		5	9.8	13	2.7
三	四	28.6	42.6	28.8		6	11.8	14	2.0
	五	68.0	17.9	14.1		7	8.9	15	0.2

【社会】

問 題		正答数(%) (部分点数)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問 題		正答数(%) (部分点数)	誤答数 (%)	無答数 (%)
1	(1)	3点	67.7		2	(1)	3点	9.6	
		2点	0.0				2点	5.7	80.5
		2点	25.0	75.0			2点	78.2	0.2
		①	59.1	40.9			3点	2.7	
	(2)	2点	62.7	36.9			2点	16.9	50.1
		3点	46.0				1点	24.0	6.4
		2点	0.4		1	(1)	(1)	63.8	32.3
	2	3点	72.5				(2)	42.5	0.5
		2点	0.2				(3)	65.5	33.9
		3点	7.8				(4)	25.9	52.2
2	(2)	2点	90.1	2.1			2点	16.7	5.2
		1点	41.9	57.9	2	(1)	(1)	52.8	40.5
		2点	88.5				(2)	72.3	0.7
		1点	0.0				(3)	47.2	46.2
	3	2点	5.0			2	名前	67.9	11.5
		1点	72.8	11.5			しきみ	52.2	29.3
		1点	10.7				2点	4.3	14.2
	1	(1)	59.3	40.1	3	(1)	(1)	76.2	23.4
		(2)	61.3	34.1			(2)	67.1	0.4
		3点	8.5				(2)	29.1	3.7
		2点	29.8				(1)	78.3	0.7
		1点	2.7			2	(2)	60.6	29.8
		3点	55.2				(2)	2点	9.6
		2点	0.9			4	a	29.5	54.7
		1点	0.0				2点	1.8	14.0
		(5)	34.1	65.5			b	23.3	53.5
		(6)	41.7	57.9			2点	0.9	22.4

【数学】

問題		正答数 (%)	部分 解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問題		正答数 (%)	部分 解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	
1	1	91.1		8.7	0.2	4	(1)	図	72.3		14.0	13.7
	2	73.0		25.5	1.4		Aの値	50.2		33.9	16.0	
	3	88.1		11.9	0.0		一定の値	37.8		22.2	40.1	
	4	85.5		12.2	2.3		式	11.0		41.0	48.0	
	5	92.4		6.7	0.9	5	2	1.8		25.2	73.0	
	6	90.1		9.4	0.5		1	55.0		34.0	11.0	
2	1	96.5		2.1	1.4	6	2	(1)	17.2		56.4	26.4
	2	65.1		23.6	11.3		(2)	12.1		35.8	52.1	
	3	67.4		25.7	6.9		1	75.4		22.2	2.5	
	4	70.2		25.9	3.9		2	(1)	74.1		16.0	9.9
	5	44.5		43.1	12.4		(2)	0.9	0.0	51.1	38.8	
3	1	24.3		71.6	4.1	7	1	45.9		41.0	13.1	
	(1)	54.8		21.8	23.4		2	(1)	5.5		61.9	32.6
	連立方程式	32.3		23.0	44.7		(2)	6.6		60.3	33.2	
	(2) 計算の過程	22.7	11.0	20.6	46.5							
	*の内、x,yが求められた			6.4								
3		44.7	11.3	16.8	27.1							

【理科】

問題		正答・部分点数(%)			誤答数 (%)	無答数 (%)	問題		正答・部分点数(%)			誤答数 (%)	無答数 (%)	
		正答(%)	2点(%)	1点(%)					正答(%)	2点(%)	1点(%)			
1	1	70.7			28.7	0.5	6	1	58.9			41.0	0.2	
	2	44.3	28.0	9.0	16.8	3.2		2	43.6			55.9	0.5	
	3	43.6			56.4	0.0		3	36.0			63.5	0.5	
	4	58.9	0.5	0.2	33.9	6.6		4	4.6	4.1	0.7	74.3	16.3	
	5	54.3			45.6	0.2		5	13.8	0.2	0.2	70.4	15.4	
2	1	(1)	90.8	0.2		5.3	3.7	7	(1)	60.3	0.0	0.2	38.3	1.2
		(2)	56.9			42.7	0.4		(2)	56.4	0.7	0.0	32.6	10.3
		(3)	28.4			70.9	0.7		(3)	24.3	1.2	0.7	61.9	11.9
	2	55.7	6.9	4.1	27.7	5.7	(1)	23.6		19.0	50.5	6.9		
3	1	28.7			2.5	66.7	2.1	(2)	34.8			49.8	15.4	
	2	67.4	8.3	6.4	16.8	2.5	(3)	①	21.3			57.6	21.1	
4	1	(1)	49.6	0.0	26.8	22.2	2.7	(2)	1.6			63.5	34.9	
		(2)	24.8			62.1	13.1	1	30.0			69.3	0.7	
	2	11.3	0.9	0.0	66.5	21.5	2	34.8			64.7	0.5		
	3	5.0			79.1	16.0	3	62.8		1.1	35.3	0.9		
5	1	79.1			20.7	0.2	8	(1)	42.9			41.7	15.4	
	2	化学式	56.6	2.8	0.4	36.3	4.1	(2)	6.2			83.0	10.8	
		はたらき	56.0			39.7	4.3							
	3	47.7	5.0	3.4	38.7	5.7								
	4	9.7	15.6	10.4	53.9	10.4								

【英語】

問い		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問い		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
1	1	95.6	4.4	0.0	4	5	62.2	37.5	0.4	
	2	94.8	5.2	0.0		6 A	76.2	23.4	0.4	
	3	96.3	3.7	0.0		B	62.2	37.3	0.5	
	4	48.5	51.5	0.0		質問1	94.7	5.2	0.2	
2	1	91.3	8.7	0.0		質問2	56.1	43.2	0.7	
	2	75.3	24.7	0.0		質問3	56.5	41.4	2.1	
	3	30.0	69.8	0.2		①	62.5	37.5	0.0	
	4	59.5	40.3	0.2		②	63.8	36.1	0.2	
	5	32.3	67.5	0.2		③	41.6	57.5	0.9	
3	1	96.6	3.2	0.2		④	59.5	39.3	1.2	
	2	60.4	39.4	0.2	3	問い	点数 (%)			
	3	点数 (%)				6	64.3			
	4	4	6.9			3	27.0			
4	3	3	7.6			0	8.7			
	2	2	8.1			3点、0点のうち、無答が				
	1	1	6.7			ひとつの者の数→			3.0	
	0	0	70.7			ふたつの者の数→			4.5	
	0点のうち無答数(%)→	34.8			5	問い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	問い	点数 (%)				4	a	64.7	32.1	3.2
	4	4	24.3			b	62.9	32.9	4.3	
	3	3	13.8			c	31.3	63.4	5.3	
5	2	2	7.4		3	問い	点数 (%)			
	1	1	6.0			8	28.6			
	0	0	48.5			7	8.0			
	0点のうち無答数(%)→	41.5				6	11.6			
	問い	点数 (%)				5	4.6			
	1	5	11.9			4	4.8			
6	4	4	4.4			3	5.3			
	3	3	34.5			2	5.2			
	2	2	19.7			1	2.8			
	1	1	9.2			0	29.1			
	0	0	20.2			解答の正誤にかかわらず、				
	0点のうち無答数(%)→	33.3				4文以上書いた者の数→		0.7		
7	問い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)		3文書いた者の数→		62.3		
	A	76.4	20.4	3.2		2文書いた者の数→		13.6		
	B	35.0	61.5	3.5		1文書いた者の数→		5.7		
	C	51.3	39.5	9.2		無答の者の数→		17.7		
8	3	①	56.3	43.0	0.7					
	②	88.5	11.0	0.5						
	③	76.4	22.9	0.7						
	問い	点数 (%)								
9	4	5	18.3							
	4	4	9.6							
	3	3	8.9							
	2	2	13.0							
	1	1	6.2							
	0	0	44.0							
0点のうち無答数→				36.7						